

銀産労で時間外管理の強化進む

近畿大阪銀行では、3年前の5億2千万円の不払い残業の全行是正が行われましたが、昨年12月に再度労働基準監督署の是正勧告を受け銀産労は、再度の不払いの2年間の是正と改善策を求めて団交を行っていません。

時間外管理も正確管理の対策として、始業の開始および就業管理を従来のパソコンでの時間外管理とは別に、手書きの二重管理を行うよう一定の改善策を取ってきています。

また、本部の定例的な実態記録チェックを行い、拠点長の管理状況をフォローする体制を強化しました。

三菱東京UFJ銀行でも、長年の銀産労の時間管理の追求もあって、2月15日部落解放同盟との不祥事で金融庁の行政処分を受けたこともあり、3月2日、時間管理のコンプラ面からの強化策が通知されました。近畿大阪銀行同様にパソコンで時間管理をしていますが、時

間外の記入時間と各自の持つパソコンの立ち上げ時間と終了時間の乖離が30分以上有る場合は、説明を要すことになりました。特別に、この時間管理のできるシステムを作成し、拠点長が毎日チェックすることになりました。

3月22日の団交では、銀行としてこのようなシステムを作って管理強化するのは、経営陣の相当の決断が要ったこととして説明していました。

組合としては、これまでの時間管理について銀行側が、「この問題は繰り返し繰り返し訴えていくことが最大の施策」といつていたことと比べて管理施策の改善をとったことと自体近畿大阪銀行も三菱東京UFJ銀行も一定の前進面を評価していますが、全行員が中身を理解しす抜け策や形式管理にならないような指導を引き続き要望しています。

銀行と上手に付き合うには

京商連「青年講座」で



質疑応答では、参加者から「融資3原則」と言うけれど、サラ金などへの銀行からの融資は反社会的資金ではないのか」「赤字資金は融資してもらえないのか」「融資を受ける時、金利などの損得も含めてどこへ相談すればいいのか」「経営革新計画書」を金融機関に提出すれば融資枠が増やしても「緊急事態に対応できる短期の小口スポット融資を開発してほしい」「地銀・信金も最近、保証協会に融資を事務的に回すだけで、親身になって融資の相談に乗ってもらえなくなっている。プロパ―融資は現実にあるのか」など、かなり突っ込んだ本音の質問や意見が出され、銀行・信金の立場から浦野・田畑の両名がそれぞれ答え、あつとあつと予定の時間が終了しました。

今後も本音の交流を

主催者である京商連青年部協議会からは「金融機関の実態や中小業者の

実態がお互いに少しは理解できたと思う

今後とも引き続きこのような場をもって地域経済を盛り上げていこう」と挨拶がありました。

中小業者のナマの実態を理解していくことは、私たち金融労働組合として、とても大切なことです。地域の業者の皆さんの切実な声を金融機関の仕事に少しでも反映できるように、引き続き取り組んでいこうと思います。

京商連定期総会に出席

5月27日、京商連第46回定期総会が福知山・サンプラザ万助で開催されました。

京都北部では今回が初めての開催であり、金融労働・田畑書記長、京都北部信金従組荒砂副委員長、阿部副委員長が来賓出席しました。荒砂副委員長が「地域経済発展のため、労働組合も地域と一体になって活動が必要」と挨拶しました。

信金経営の生き残りのためにも地域の中小業者との共同をこのような機会に実践していくことが大切です。



4月27日(金)、京都府中小企業会館で30人を超える中小業者や商工会事務局の人たちが参加して開催された京商連「青年講座」に、金融労働から田畑書記長と浦野近畿地協副議長が参加しました。

金融機関

「親切さ」なくなる

浦野副議長は、「銀行と上手な付き合い方」と題して、金融機関における「融資3原則」や現在の金融機関の職場の実態、信金と銀行の違いなどを具体的に解説しました。